

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	2022年2月25日	評価結果市町村受理日	令和4年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

未経験で入職したスタッフが経験を積んで介護福祉士の資格を取得した方が増えてきた中で入居者の介護も重くなってきていたので令和3年度に入ってからスタッフ全員の『介護技術の向上』を目標にかかかってスタッフにスキルアップしたいことを聞き、毎月の会議の際に研修を取り入れています。また、その中で週に1回の訪問看護の際に看護士に褥瘡の処置の仕方や様々な便秘薬の効き方や副作用についてスタッフが聞く機会が増えました。聞いたことを統一して実践してスタッフのスキルも少しずつではありますが、力量がついたように感じます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは「介護技術の向上」を今年度の目標に掲げており、職員の力量向上のため施設内研修に力を入れている。おむつの交換や記録の仕方、言葉使いなどを学び、訪問看護師からは褥瘡ケアや薬の効能・副作用等についてアドバイスを受け知識を深めている。地域との関係づくりも積極的にこなされており、施設の玄関前を移動スーパーの場所として毎週提供しており、近隣住民が利用している。コロナ禍前は近くの福祉事業所からパンを購入したり、ホームの夏祭りには地域住民に声をかけ、地域の夏祭りに利用者も参加していた。新型コロナウイルス感染症が収束した際には、地域交流の再開が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の『支え愛』をもとに思いやりを持って笑顔溢れるサービスができるように利用者様の声に耳を傾けて、ケアの向上のために提案して実践しています。	職員会議内で研修を実施しており、ホーム理念の「支え愛」について話し合い、利用者の笑顔に繋がるケアに取り組んでいる。利用者の喜ぶ顔が見られた時に、理念に沿ったケアが実践できていることを感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により地域と関わる機会ははとでも減りましたが、地域の要望もあり移動スーパーの場所として提供して地域のお客様と週に1回設けています。	自治会に加入し、地域との交流を積極的におこなっている。毎週1回移動スーパーに施設玄関前の場所を提供している。コロナ禍以前は、地域向けの介護教室の講師を努めたり、ワカバ祭りに地域住民にも参加してもらったり、地域の祭りには利用者が参加するなどしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが流行する前は毎月第2と第4の月曜日の午後1階のフロアを使って介護予防教室を開き、スタッフも15分程度講師となり、体操や実際に行っている脳トレを披露していましたが、現在は収束まで会場をすぐ近くの自治会館で行い、スタッフの参加も中止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、集まっての開催ができず、書面での報告のみしか行っておりません。しかし、今後はパソコンを使用してズームでの会議や書面による意見交換も行っていきたいと考えています。	運営推進会議は地域包括支援センターや自治会長、民生委員、地域見守り会などの参加で2か月に一度開催していたが、コロナ禍で書面開催になり、報告事項が主となっている。また、行政には会議録を送っている。	書面開催でも報告事項等について参加者から意見をもらうなど、双方向の会議になることが望まれる。また、返信用封筒を入れたり、会議録は参加者全員に送ることも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍により、市町村担当者と連絡はあまり密に取れていませんが、電話で実情やケアサービスの取り組みを説明したり空き情報や待機状況を伝えています。	市の担当課には報告や相談をしたり、利用者の状況を伝えている。また、地域包括支援センターには利用者について相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の虐待防止の研修の際に今まで行っていた支援方法がいずれ虐待行為に繋がってしまうことを学び、支援の仕方の見直しをしたり、声掛けが良くないと感じた時にはその都度注意し合う環境づくりの為に、スタッフ間で相談したり、入居者が何を求めているのかを知るためによく話をすることに心がけています。身体拘束委員会も設置しており、本社の統括管理室室長・管理者・ケアマネージャー・スタッフ2名で構成して毎月10日に委員会を開いて話し合いをしています。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、毎月1回高齢者虐待防止委員会で身体拘束と虐待について話し合っている。委員会メンバーは法人から1名、管理者、ケアマネージャー、職員2名である。話し合った内容は職員会議や、朝礼、時には個別に周知し、共有を図っている。また、年2回虐待の芽チェックリストで自己点検をおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和3年に虐待防止法について系列事業所の施設長を講師として呼び学ぶ機会を設けて正しい知識を持ち、良くなさそうだなと思う声掛けや介助については注意し合えるような環境づくりに努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はスタッフ会議の際に成年後見制度について学ぶ機会が持てなかったが、実際に入居者様に後見人様がついているので仕組みを知る研修を来年度は取り入れます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、ご家族様の不安や疑問点を伺い、安心して入居日を迎えられるように支援方法を十分に説明し、理解を得ています。また、改定の際には、コロナ禍により、書面または電話にて説明し対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と関わっている中で出た思いだったり、ご家族様からの支援の要望については、職員の意見も含めご家族に相談し、管理者とご家族で決定後利用者様への支援を行い経過を報告しています。	利用者の要望は日常のケアの中で聞き取っている。家族の意見は面会時に聞いており、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なるべく職員とは意見を聞くようにしています。中には意見だけ言う職員もいますが、多くの職員が意見だけでなく提案も述べられるように「どう工夫したら改善できるか」を会議の際には意見を議題に上げて話し合いをしています。	毎月の職員会議で意見や提案を出し合い、話しあっている。また、年1回管理者が職員と面談し悩みなどを聞きとり、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と一緒に勤務している中で上司に評価を報告したり、勤務について相談受けて話し合った結果について報告したり勤務形態の変更について相談し働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験の方も中にはいるのでケアや力量に差が出ないようにスキルアップの為に会議のう際に排泄介助の研修をしたが、今後は実際にオムツの業者から講師を呼んで統一したケアができるようにしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により中々、同業者と交流する機会が減っているが、系列のGHワカバあびこが近くに移転したこともあり、人事交流を含め、他事業所の良い点を取り入れてサービスの向上をしていきたいと考えています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居からしばらくは環境の変化により不安なことや困っている事などを傾聴したり、行動を観察したり、生活歴をアセスメントシートだけでは実際に話をし、知ることで信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安やお困りごとを伺い、電話や面会の際であったり、毎月の介護連絡票に写真を添え報告して安心して頂けるよう関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としている支援については管理者・スクアマネージャー・スタッフと話し合い柔軟に対応出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただお世話するだけでなく、食器拭きや洗濯物たたみ等、本人の出来ることを見極めて役割を持つことで一緒に生活していると感じられるように感謝の言葉も伝えて信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時だけでなく、対応できる時にはご家族様にも病院受診に対応して頂いたり、本人の安心や活力のためにもなるべく面会にも定期的に来て頂けるようにご家族様に連絡したり状況を報告して本人と家族の関係が途切れないように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、親戚や友人等の関係が途切れないよう事前にご家族や本人に伺い面会をできるよう努めています。	家族の協力で馴染みの美容院に行く利用者がいる。また、コロナ禍前は外泊や家族と食事などにも出かけていた。家族の面会は、現在事前予約で一家族2名まで、20分程度で実施している。また、電話を利用する人もおり、できるだけ関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状によって利用者同士の相性も違う為、座席の配置には配慮して1人が好きな方もいらっしゃるのその方は、スタッフが声を掛けるようにして孤立してしまわないように努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設に移られた際には、その後も安心して生活できるように、施設のケアマネージャーにこれまでの施設での生活状況等を伝えたり相談に乗るよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話ができる方には、思いや意向を十分に聞き、困難な場合は本人の表情や行動から把握するようにしています。話から出た気持ち等は管理者・ケアマネージャー・スタッフと情報を共有し支援に努めています。	職員は日常の会話だけでなく、表情や行動からも意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートから得られる情報だけでなくご本人やご家族から聞いた情報も含めて管理者だけでなく日頃から見ているスタッフも面会の際に聞く等して把握と情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や顔の表情や姿勢であったり本人のペースに合わせて休んで頂いたり体調の確認をして生活して頂いています。また、トイレでの立位保持の力やどの程度移動の際に足が動くのかも観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の体調や精神的な部分での変化をスタッフから報告もらい、管理者及びケアマネージャー・かかりつけ医・家族にも話し、そこから出た意見を元に今の本人に見合ったケアプランを作成しています。	担当者会議では、ケアマネージャー、管理者、職員で話し合っている。介護計画はケアマネージャーが作成し、職員に目を通してもらい、計画に沿ったケアの実践に努めている。毎月モニタリングを実施して、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中で変化があったことや発見したことや試しに実践してみたこと等を記録に残す様にし職員間でも記録を見たり朝礼時に確認及び情報共有しており、それを元にケアプランの変更・継続をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、ご家族様での対応が難しい時には、施設で対応するようにしています。また、1階の小規模多機能から入居になられた方もおり、小規模多機能方で仲が良かった方と日中はなるべく過ごせるように対応しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週水曜日の午後に地域のスーパーによる移動スーパーが事業所に来て地域のお客様がお買い物する中で入居者の方も混ざってお小遣いで買いたい商品を買って楽しめるように支援しています。(蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言中を除きます)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医以外でかかったことのある病院の有無を確認したり、緊急時の希望の搬送先をご家族に伺い、病院受診の必要性が出た時には希望の病院になるべくかかれるように先生に伝えて紹介状を書いていただいています。入居者の体調の変化時は先生に連絡・相談し指示を仰いでいます。	ホームの協力医療機関が月2回の訪問診療をおこなっている。また、従来からのかかりつけ医に診てもらっている利用者もいる。週1回看護師や歯科医の訪問もあり、歯科衛生士による口腔ケアもおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフはよく入居者の日々の変化によく気づき訪問看護師が来た時には、相談し、アドバイスを受けた事に対して1週間実践したり、受診の必要性も聞いています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報シート(サマリー)を渡して、環境の変化に敏感な方には入院先の看護師に伝えていきます。また、現在は、コロナ禍により、退院前のカンファレンスがない為に退院までに担当の看護師やソーシャルワーカーさんに気を付けること等確認しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の事業所の方針を説明をした上で本人ご家族様のご意向を聞き共有し、適宜、かかりつけ医と管理者及びケアマネージャー・ご家族様とサービス担当者会議を開いてスタッフにも説明して支援しています。	急な容態変化への対応は、緊急時対応として手順を定めている。現在は看取り支援の実施を目指して、体制の充実を考えているところである。家族の意向も聞きながら、ホームとしてできる事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、管理者やかかりつけ医、ご家族への連絡や説明など全員が出来るようにまた、緊急時、飲んでいる薬もすぐに答えられるように適宜個人ファイルの薬表を見るよう指導しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くに高校があり、近隣の住宅に寮としてスポーツをしている学生が生活しているので車椅子の方の避難の際に協力関係が結べるようにしていこうと考えています。また、震度4以上の地震の際には管理者に安否や異常がないかの報告するようスタッフには伝えていきます。	施設内には、自家発電機につながっているコンセントを4か所設置している。水、食料は3日分を備蓄し、一覧表を作成している。自治会の防災訓練に参加していたが、コロナ禍で訓練が中止となっている。	近隣の寮をはじめ、災害時の地域との協力体制構築が期待される。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ性格や生活歴も異なり、また認知症状も違うが声をかける際にはその方に合わせて声の大きさや目線を合わせて対応しています。出来ていないスタッフにはその都度、その対応を自分がされたらどんな気持ちになるのかと指導しています。	毎年接遇研修を実施している。管理者は職員に、利用者の人生に敬意を払うことを意識するよう指導している。職員は利用者への声掛けについて、否定しないなど、自分に置き換えて考えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション以外で少しでも時間が出来た時には、なるべく入居者の方とお話するようにして思いを閉じ込めてしまわないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、不安や不穏で落ち着かない時は利用者様を優先するように常に伝えていきます。トイレや入浴の声掛けはしても行きたくない時には無理にはせず、間を空けて対応するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする習慣がまだ残っている方には出来るように準備したり、好きな洋服やこだわりの服がある方には選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回はスタッフが考案したり入居者様に食べたいものをリクエストしていただいて手作りの物を提供したり食材配達会社の行事食メニューを月に1~2回程度取り入れる等して楽しんでいただいています。また、洗った食器を拭いて頂いたり、おしぼりを巻いてもらうなど手伝いもしてもらっています。	食材の会社から届く材料で職員が調理している。利用者から聞いた好きな食べ物を献立に反映し、日曜日は麺の日、木曜日は職員が考えた献立やレストランなどのテイクアウトを利用するなど、変化のある食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、増加傾向にある方は食事量を調整しています。水分に関しては、食事やお茶の時間以外にも適時提供して脱水や便秘の予防に努めています。肺炎にもならない様に嚥下状態に合わせてとろみをつけて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き粉を飲んでしまいうがいが多い方には口腔ティッシュを使って清潔保持しています。口臭や磨きがあまい方には訪問歯科にて週1回口腔ケアをして診てもらい肺炎予防に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人で立つことが難しい方でもトイレだと排便を確認することができる方中にはいらっしゃるの で二人介助で対応したり、転倒リスクが高くトイレが頻回な方はご家族の許可をいただいた上で居室にポータブルトイレを置くなどして対応しています。	車いす使用の人も含めできるだけ、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表の記録から排泄のリズムを把握したり、トイレに行きたい様子を察知し誘導している。ジュエチャーで誘うなど自尊心への配慮も心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフには認知症の方の多くは便秘が原因で落ち着かなかったり不機嫌になってしまうことを説明しており、薬の見直しや水分の提供を適宜試みながら食事の前に乳酸菌飲料を提供して効果を試みようという意見もスタッフからあがり実際に実践して便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安として週間入浴表を作成しているが、実際は入所者様のその日の体調や気分に合わせて入浴支援しています。また、入浴が難しい時は足湯場を使い足湯から慣れていただくような支援をして喜んでいただいています。	週に2回、同性介助にて入浴支援をしている。自分の好きなシャンプー、ボディソープを使う人もいる。柚湯やしょうぶ湯など季節にあわせたお湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただくために居室の温度や眠れない時にはどうして眠れないのかを尋ねたり、温かい飲み物を提供してみたり、眠れない時は(夜間であれば)眠くなるまで夜勤スタッフと事務所で過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人がどんな病気・症状で薬を内服しているのかスタッフが把握出来るように個人ファイルに処方薬表を入れて閲覧し、救急搬送時には誰もが答えられるように努めています。実際にその薬の効果と副作用について訪問看護師に聞くスタッフもいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で認知症状も重くなってきてる中で中々全員でレクリエーションを行うのは難しいですが、スタッフがお菓子づくりのレクをするだけでも喜んで下さいます。また、個別にレクではなく食器拭きなど得意なことをお願いすることで本人も役割が持てた気持ちになり、時々スタッフのことを見て「やろうか」とおっしゃってください。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍と車椅子使用者が多いので外出支援は減りましたが、隣の公園に桜が満開の時には、暖かい日に公園を1周回って楽しんでいただいています。何日かに分けて暖かい日に人混みにならない川沿いまで出かけて季節の花を觀賞する機会も設けて気分転換を図っています。	外出ボランティアや家族の協力を得て、近隣の公園に出かけていたが、コロナ禍となり、日常的に戸外に出かける機会が少なくなりました。1階のフロアに下りたり、2階の公園を見下ろせる窓際で日光浴などを行っている。	コロナ禍、重度化の課題はあるものの、気分転換や五感刺激の機会として、敷地内の庭や隣接する公園など、日常的に戸外に出かけられる体制や支援の工夫を期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会はあまりありませんが、ワカバに毎週水曜日の午後近隣のスーパーの移動スーパーがくるので、そこで飲み物やおやつなど買い支払いもできる方には払っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症状が重いので自ら電話かけることは殆ど難しいですが、ご家族から届いた手紙やメッセージカードを見せて読み上げたり蔓延防止や緊急事態宣言でない限りは定期的にご家族様との面会を設けたり月々の様子が分かるように3ヶ月に1回は写真を同封しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物のつくりの関係上、音がとても響きやすいので音には十分に配慮するようスタッフにも指導しています。また、寒さや乾燥には敏感ですので温度の調節もし、入浴介助の際もヒートショックの防止に努めています。また、季節の作品を飾ったり花を生けたりして季節を感じていただいています。	壁面には行事の際の写真や、利用者の作品が掲示されている。季節を感じる手作りの飾りを利用者が職員と一緒に飾り付けている。生け花の得意な利用者が活けた花も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブルが3台あり、その他に和室やソファもあるので、入所者様同士の相性が合わないことも時にはあるが、気分が落ち着かなかったり独りになりたい時などは自分の席ではなく別のテーブルに移動したり、仲の良い方々は同じテーブルにする等しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時及び本人のご要望時にはご家族様に相談して安心して過ごせるように自宅から使い慣れた物(仏壇やテレビ、食器)や必要なもの持参していただいています。	居室には、ベッド、エアコン、パネルヒーター、防災カーテンが整備されている。ホームで布団も用意しているが、使い慣れた布団を持ち込むこともできる。また、好みの家具やテレビ、仏壇などを持ってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方が多くですが、居室のポータブルトイレまで歩きたい気持ち強い方はご家族の同意を得た上で居室内は自由に歩けるようにしたり、車椅子の方でも動きたい方は足で漕ぐように促しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと